



進路だより



H31年度 10月号

～ 進路選択について ～

朝晩の気温が随分下がり、本格的な秋がやってきました。風邪など体調を崩しやすい時期です。マスクは感染拡大の予防になります。特に受験生の皆さんは着用してください。うがいや手洗いも効果の大きい予防法です。ぜひこちらも励行してください。

さて、3年生が朝早くから下校時間ギリギリまで、階段教室やHR教室等で自主学習に励んでいる様子を見かけます。上手に活用して実力アップを目指しましょう。まだまだ伸び代はありますよ。進路選択を消去法とするのではなく、実力をしっかりつけて選択肢を増やせるように受験勉強に励みましょう。

1・2年生は来年度の科目選択を行う時期です。理科や地歴は、何を選択しようか迷っていませんか？特に1年生の普通科の皆さんは、「文型に進むか？理型に進むか？」という大きな悩みをもっている人も多いと思います。

そこで今回は、進路実現に向けて「悩める後輩たちのために一肌脱ごう！」と、2・3年生の進路委員の先輩方が届けてくれたアドバイスをまとめました。

「自分はこのような基準で選んだ」

○文型

- ・志望大学に必要な教科を勉強するため。
- ・将来の夢を考えたとき、文型のほうが良かったから。

○理型

- ・数Ⅲが受験に必要なため。
- ・大学で化学を学びたいと思ったから。
- ・自分のなりたい職業のため。
- ・物理を受けられる。

「選択して良かったこと」

○文型

- ・文系科目を詳しく勉強することができる。
- ・英語・国語の単位が多いこと。
- ・数学の授業スピードが1年次に比べて少し遅くなり、理解が追いつける。

○理型

- ・石丸先生の化学が受けられる。
- ・レベルの高い数学を学ぶことができ、数Ⅲを学ぶことによって数ⅠⅡABの理解が深まった。
- ・理系科目の内容理解が難しいが、達成感がある。

「その他アドバイス」

- ・教科の好き嫌いや得意不得意ではなく、将来の進路を考えてしっかり選ぶべきである。
- ・好きな教科を深く学ぶことができ、苦手教科に時間をかけられること。
- ・同じ夢に向かって進む友達が周りに多く、モチベーションの維持に繋がった。

自分の志望校の入試科目についてもよく調べて、悔いのない類型選択・科目選択をしてください。

【報告】第3回南高教養アップ講座

「社会が求める主体性、協同的な学びができる学生 —なぜ九工大で総合型選抜を実施するのか—」

8月1日（木）の放課後に、講師として安永卓生先生（九州工業大学）をお迎えして、講演を行っていただきました。今後社会が求める学生像、人間像はいかなるものかをワークショップを通して体験できました。実施したワークは、「なくなった道具、なくなりそうな道具」で、アイデアを出し合い、いろいろな角度から意見を出し合う大切さを学びました。受講した生徒の感想を紹介します。



これから求められる主体性が如何に大切なのかが、グループワークをとおして理解できました。一つの物事を様々な角度から見てアイデアを次々に挙げていき、それだけでなく出てきたアイデア同士の関係性、そしてそれらを離れた目で見ても何が分かるのかといった、ただ考えるのではなくそこから矢印をどうつなげていくのか、というのがこれからの社会で必要とされている人間性なんだと強く感じました。まずは、自分から積極的に発言をし、それを文章としておこす、まとめることをしていき、主体性、協働性を身につけていきたいです。

【報告】第4回南高教養アップ講座 「生物学における可視化技術—百聞は一見に如かず—」

9月19日（木）の放課後に、講師として井上貴文先生（早稲田大学）をお迎えして、講演を行っていただきました。今回1時間で紹介していただいた可視化技術には9個ものノーベル賞が与えられており、その技術開発の意義の大きさが伺われました。生物、医療分野において可視化技術は大いに役立っており、特に医療の発展に大きく貢献しているという新たな認識が持てました。受講した生徒の感想を紹介します。



理学と医学の融合により最先端の技術を開発できると知り、生命医科学科の重要性を実感することができました。MRIによって昔の医学では分からなかったことについて詳しく知ることができるし、病気の進行が遅いうちに何が原因かについて知ることができると分かり感動しました。教科書では平面でしか見ることでできない構造を立体的に動画で見ることによって今まで知らなかった感覚を味わえました。

【報告】大学説明会・模擬講義 「広島大学」「微生物・動物を用いた健康長寿研究」

7月4日（木）に、水沼正樹先生をお迎えし、本校会議室にて説明会を実施しました。広島大学と工学部の説明に加えて、模擬講義をしていただきました。受講した生徒の感想を紹介します。



今日の模擬講義で初めて知ることが多くありました。まず、工学部について、理学部との違いや、研究が身近に使われていることを知り、驚きました。先生の研究については、122歳まで生きた人がいると知ってすごいなと思いました。また、老化に関する紹介がたくさんありました。はやく老化が進んでしまう病気は衝撃的でした。酵母はパンのこととかでよく聞けるけれど、詳しくは知りませんでした。酵母をモデルにして研究をすることで、老化を防ぐ方法を見つけ、寿命が延びることが期待されるのだと思いました。線虫によるがん検診は、これから発展すると思いました。

【報告】大学説明会 「愛媛大学農学部」

9月12日（木）に、山内聡先生、羽藤聖治先生をお迎えし、本校会議室にて説明会を実施しました。農学部および各学科の特徴や研究内容などについて、分かりやすく説明いただきました。受講した生徒の感想を紹介します。



農学部は奥が深い学部だと思いました。よりよい食品（食料）を開発すること、より住みやすい環境を生み出すことは、私たちが生きていくにあたって絶対に欠かせないものです。日本は人口が少ないです。資源も限られています。洗練された技術を用いて、世界に踏み出すためにも、今の私たちが支えていかなければなりません。私は環境問題に興味があります。野生の生き物を守りたいです。人と動物が共生していけるような環境を作り出せるよう、今の勉強も大切にしてがんばりたいと思います。